

イノベーション創出の拠点

KU-CIC

イノベーション創生センター

Kansai University
Center for Innovation &
Creativity

NEWSLETTER

C O N T E N T S

Open Lab

研究室のイマ

システム理工学部 機械工学科 / 鈴木 昌人教授

Portrait

未来を担うイノベーターズ

株式会社イノカ / 高倉葉太氏

大学院理工学研究科 システム理工学専攻
博士課程前期課程 / 新家谷一生さん

News & Topics

イノベーターズトーク

起業サポートシリーズ

企業見学会シリーズ

ビジネスアイデアコンテスト“SFinX2023”

入居ベンチャーの活動報告

今後のイベントスケジュール

2024年度関西大学GAPプログラム募集開始!

「Mission Lounge」活動報告

編集後記

生 命 の 持 つ 力。

Open Lab

→ 研究室のイマ

AIで微細な血管を認識・特定し、無痛針を使って自動で採血できるシステムを開発

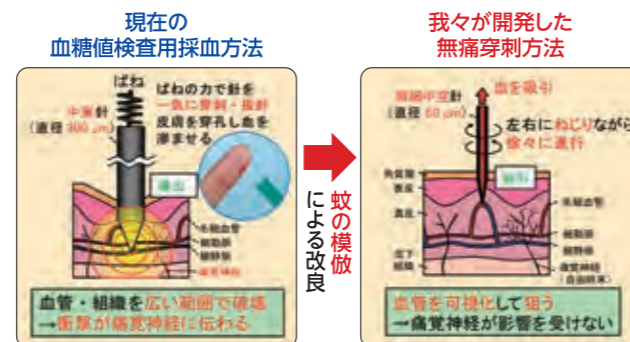
関西大学 システム理工学部 機械工学科 鈴木 昌人教授

自然界の生態を模倣することを「生体模倣(バイオミメティクス)」といいます。

その蚊の針先には、皮膚に針をスムーズに刺すために、数 μm (マイクロメートル/1 μm =1,000分の1mm)サイズの突起があります。どうすればこんな微細な蚊の針を真似て作ることができるのか? それを可能にするのが、半導体製造に欠かせない「MEMS(メムス/Micro Electro Mechanical Systems)」技術です。MEMSは医療機器、とりわけ針の製造にはよく応用されており、代表的なものが「マイクロニードル」です。

絆創膏のようなテープを目の下のクマ部分に貼るだけで、しわやたるみを解消! そんな広告を見たことがありますよね。あの仕組みは、肌に潤いを与えるヒアルロン酸でマイクロニードルのシートを作り、それを皮膚に貼る(何本もの針をまとめて刺す)ことで皮膚内にヒアルロン酸を注入するものです。皮膚の浅い所は痛覚神経も少なく、極細針なら触れることもないため、痛みはほとんどありません。

しかし、私たちが考えているのは採血で、血管の周辺には痛覚神経も通っています。どうすれば無痛にできるか? 基本的には、より細い針を作れば良いのです。一般的な注射針の太さは0.3~0.4ミリ程度ありますが、私たちが作っている針は0.09ミリです。最も細い血管(細静脈、細動脈)の太さは約0.1~0.2ミリ。それよりもさらに細い針なら、確率的には、痛覚神経に触れることなく血管を刺すことができます。



さらに、私たちが開発する針は、金属製の針と違って毛のように柔らかく、万が一、刺す角度を誤っても針の方が変形し、皮膚や血管を傷つけることはありません。痛くない・傷つけない安全な針なのです。

次に、「微細血管認識」について説明します。ここでは、私たちロボット・マイクロシステム研究室で取り組んでいるロボット技術が活かされています。ロボットとは何か? を簡単に言えば、「命令に対して、自分で判別・判断して動くことができるもの」です。たとえば、「部屋の中にあるペットボトルをテーブルまで持って来て」と命令したとします。これを達成するには、ペットボトルとは何かを認識し、合致するものを探さねばならない。そしてペットボトルを潰さないように掴み、テーブルなる場所まで運ばなければならない。これら一連の作業を自分で完結できるものがロボットです。

私たちが出す命令は、「針を刺しやすい場所や深さにある比較的まっすぐな細い血管を探し、適切なポイントを特定して針を刺して採血して」です。その命令に応じてもらうには、何万枚もの血管の画像を使って、適した血管を正確に判断できるように学習させています。

CICは、企業とコラボした実践的研究の場。研究者が不得手な「市場性の検証」もカバー!

私たちは無痛針とその穿刺装置の開発のため、京都の精密加工メーカーである二九精密機械工業株式会社を始めとした様々な企業との共同研究を行っています。そのおかげで、無痛針の開発はほぼ完成に近づきました。微細血管認識システムも数年後には実用レベルに近づき見込みです。しかし、「技術」の見通しは立っているものの、製品化には至らない。それはなぜか? そこには「市場価値の検証」という大きなハードルが残っているからです。

このシステムをどれぐらいの医師や病院が必要とし、果たして何個売れるのか? それを作るにはどんな作業が発生し、コストはいくらかかり、最終的にいくら利益が出るのか? そうした市場における経済規模や生み出す経済価値をまだ検証しきれていないのです。ましてや、医療機器は通常製品と違い、PMDA(Pharmaceuticals and Medical Devices Agency/独立行政法人医薬品医療機器総合機構)が管理する厳しい基準に従った医療承認が必要になるものもあります。そうなれば臨床での治験も必要で、その手前には動物実験もしなければならず、医療機器メーカーや病院等の専門機関との提携と協力が不可欠です。

私たちに技術的なアイデアはあっても、市場のフィット感を確かめるノウハウや経験値は持ち得ません。そこで必要になるのが、技術シーズと企業ニーズをマッチングする産学官連携コーディネーターです。その点でも大いに助かってますし、頼りにもしています。

そんなコーディネーターとの連携も含め、CICは社会や地域に役立つモノの開発と社会実装を目的として、企業とコラボした実践的な研究ができる特別な場です。学生のうちからこうした事業化を視野に入れた研究を経験しておくことは、やがて社会に出て商品開発などの仕事に就く可能性がある学生には、とても有意義な経験になると思います。

ココがスゴイ

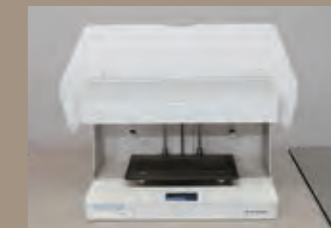
①自動採血装置

モニターにはカメラから送られてくる血管が投影され、その画像情報をもとに、AIはどこが注射針を刺すのに最適なポイントかを判断する。そのポイントが決まれば、針はその場所に向かって自動で動き、適した角度で針を刺して採血する。当然ながら、ヒトで実験することはできない。使われる腕は、看護学校などで注射の練習用に使用する腕模型を代用している。



②3Dプリンター

自動採血装置などでの実験を行うためには、たとえば実験用の腕を固定するための治具(補助工具)や、さまざまな細かい部品が必要となる。そうした部品は、自分たちで3Dデータを作り、3Dプリンターを使って自作・造形して使用する。



〈フィラメント溶解型〉

フィラメントというプラスチック素材を溶かし、層状に積み重ねることで立体物を成型する3Dプリンター



〈光造形方式〉

光に反応して硬化する性質を持つ液体樹脂に、レーザーを当てて硬化させながら立体物を成型する3Dプリンター

③マスクレス露光装置

半導体の基盤のプリントなど、超微細なパターンを作る際に使用する露光装置。一般的な露光装置は、マスクングした(隠した)部分は露光せず(光に反応せず)に残り、光が当たった部分のみが反応し、この反応の有無によってパターンを作る。この装置はマスクングすることなく露出した部分と保護された部分の2パターンを同時に作り分けることができる。



鈴木 昌人教授
Masato Suzuki



2007年3月 博士(工学) 広島大学
2007年4月~2008年3月 広島大学 ナノデバイス・バイオ融合科学研究センター 博士研究員
2008年4月~2012年3月 関西大学 システム理工学部 助教
2012年4月~2022年3月 関西大学 システム理工学部 准教授
2022年4月~ 関西大学 システム理工学部 教授

未知にあふれる海を科学して「海の見える化」を。 海洋大国にふさわしいイノベーションを起こしたい！

自然の海洋を水槽内に再現する「環境移送技術」 SDGsを意識する企業からの研究調査依頼が増

2023年7月、イノカはCICにラボを設立しました。それに先立ち、2022年6月に関西大学化学生命工学部・上田正人教授をCTO(Chief Technology Officer)に迎えました。今後、西日本エリアの企業や自治体と連携し、海洋環境保護事業などを拡大するとともに、独自の「環境移送技術」を用いて、「海の見える化」を推進し、ブルーエコノミーへの貢献をめざします。

海は、地球表面の7割を覆いながらも、「5%しか探索されていない」とも言われるほど、わからないことだらけです。「環境移送技術」は私たちの造語で、自然を切り取って持ち運べるドラえものの「切りとりナイフとフォーク」のように、海洋環境を自然に近い形で水槽内に再現する技術です。近年、SDGsへの意識が高まるなか、モノづくり企業からの研究調査依頼が増えました。工場排水が海洋に与える影響を調べたい鉄鋼メーカーや、日焼け止めクリームの影響を調べたい化粧品メーカーなど、依頼内容も多岐にわたっています。

そんな環境下、いま私たちが注目している一つが、サンゴです。サンゴは東南アジアから沖縄周辺に生息する動物で、サンゴ礁は海洋面積の0.2%に過ぎないのに海洋生物の25%が暮らしています。また、護岸効果や漁場づくりなどの役割も果たし、世界における経済価値は年間で推定約43兆円以上。しかし20年後には海水温上昇によってその70~90%が消滅するとされ、保全が喫緊の課題です。

上田教授との出会いは2021年、マリンテック領域の起業家や研究者たちが集う「マリンテックグランプリ」でした。ご専門は再生医療で、人工材料表面のヒトに対する親和性向上や、骨の形成促進・抑制に関する研究です。そのなかで、ヒトの骨形成とサンゴの形成には類似点があることを見つけ、サンゴの高速再生に応用する研究をされています。「専門外」なのに、与論島などにも出かけ、自ら潜ってデータ収集もされる「情熱的なサンゴ研究者」です。とはいえ、何度も出かけるのは無理。また、サンゴが育つ環境を研究室に再現することも難しい。そんな課題をお持ちでした。

ならば、私たちの環境移送技術で沖縄の海を再現し、安定的にデータが得られる研究室を作れないか？それが関西大学におけるラボ開設計画の始まりです。それは私たちにとっても、事業の一つである教育事業を全国に広げる足がかりになります。子どもたちに海の環境や生き物を知ってもらおう学習会やイベントでは、車に水槽を積んで現場に向かいます。移動できる範囲は1日8時間圏内、東京からだと大阪までが限界です。大阪に水槽があれば、さらに西の広島や福岡への移動も可能です。また、このラボ開設はスタートアップでは手が出ない設備を使って高度な研究ができるのも大きなメリットです。

アクアリストたちに海を再現した水槽を提供 協働すれば、海を守る・育てる技術や新資源開発の可能性も

大学に入り、いずれは起業したいとは思っていましたが、当時はまだ「GoogleやAppleのような会社を作りたい」程度の絵空ごと。ある起業家からは、「つまらない話だね、好きなことはないの？」と質問され、アクアリウムと答えると、「まずそれを勉強して出直しておいで」と一蹴されました。

もともとアクアリウムが好きで、高校時代にはサンゴも育てていましたが、あらためて学んで感じたことは、「海の生き物ってすごいな」ということ。なのに海の生き物の利用はほんのわずか。これだけ使われてないなら未知の資源も埋もれているはず。たしかに個人で海を研究する環境を整えるのは難しいけれど、無心に情熱を注ぐアクアリストもいる。その人たちに海を再現した水槽を提供し、一緒に研究して海を科学することで「海の見える化」を進められれば、きっと海を守る・育てる技術や新資源開発の可能性が生まれます。

イノカ(INNOQUA)には、INNOVATE AQUARIUMの意味を込めています。このラボを拠点とし、世界に名だたる海洋大国・日本にふさわしいイノベーションを起こしたいと考えています。

起業を考える学生にアドバイスするなら、「それは本当にやりたいことか？ 起業しないと叶わないことか？」を問い詰める時間を持って欲しい。起業は、目的ではなく手段。国や大企業のアセットの元で取り組んだ方がいいこともあります。起業というスタイルだけに目を奪われず、意識の奥底にある好きという情熱や社会的な意義をじっくり考えてみてください。



作る動機やプロセスにこだわって、 人の役に立つモノづくりをしていきたい。

細菌を死滅させる力を持つ「ナノスパイク®」 それを応用した医療設備・用品を研究開発

大学院では、「ナノスパイク®」の研究をしています。ナノスパイクをわかりやすく言えば、「ナノサイズの突起」です。ナノメートル(nm)は10のマイナス9乗m。たとえるなら髪の毛の太さの10万分の1程度の非常に小さなサイズです。このナノサイズの突起には不思議な力があります。まだそのメカニズムは解明されていないのですが、細菌がこれに触れると、それだけで死滅するのです。薬剤などは一切必要ありません。このナノスパイクの殺菌作用を応用し、院内感染を防ぐさまざまな院内設備や手術用具、さらにはカテーテルのような直接体内に埋め込むような医療用品などを作る研究開発を進めています。薬剤は使いませんから、副反応などのおそれはありませんし、薬剤を使わなければ、治療薬に対して次第に耐性を持ち、薬効を鈍らせる薬剤耐性菌の増殖も防げます。

いま私たちが取り組んでいるのは、このナノスパイクの「射出成型技術」の開発です。射出成型とは型を使った成型法の一つで、合成樹脂などの材料を加熱・溶融して型に送り込み、冷やして成型する方法です。注射器で液体を送り込む様子に似ていることから「射出成型」と呼ばれています。

現時点のナノスパイクの製法は、フィルムをプレスして作るものが一般的です。ドアノブや携帯電話などは、そのフィルムを貼ることで抗菌効果を得ています。しかし、射出成型が可能になれば、ナノスパイクも一緒に成型しているので、貼る必要はありません。つまり、この技術が完成すれば作れるモノの種類が広がり、量産も可能になるのです。射出成型の技術だけで言えば、すでに8割程度は完成しています。しかし、医療用品となれば技術以外にもクリアしなければならない規制も多く、製品として市場に出すにはまだ時間がかかりそうです。

関西大学で過ごして広がった自分の視野 修士課程修了後は、就職して人工衛星の設計へ

修士課程を終えたら就職し、人工衛星の設計に携わる予定です。意外に思われるかもしれませんが、実は人工衛星とナノスパイクは、無関係ではないんですよ。人工衛星の太陽光パネルには、光の吸収率を高めるためにナノスパイクが施されているんです。とは言っても、私は大学・大学院では、人工衛星の設計なんてほとんど学んでいませんから、それは後付けの言い訳ですかね(笑)。

人の役に立ちたい、そんなモノづくりをしたい。そう思っているんです。私にとっては、モノの種類はあまり関係ありません。医療関係なら命の現場に直結しているワケですし、人工衛星もたとえば気象衛星なら私たちの日々の生活に深く関わります。

正直に言えば、一緒に入社する仲間は、宇宙工学やロケットなどを専門に学んできた人ばかり。現時点での知識や技術レベルだけで言えば、そりゃ負けてると思いますよ(笑)。それでも私には私ならではの強みがあると思っています。それは「モノづくりに対する思い」です。作るモノにこだわっているのではありません。作る動機や作っていくプロセスを大事にしたいんです。

そう思うようになったのも、関西大学の環境が影響しているのかもしれない。CICもその一つです。企業の方々と協働し、きちんと製品として世の中に出すことを目的とした実践的な研究開発を経験することができました。また、CIC主催のビジネスアイデアコンテスト「SFinX2022」では、エントリーしている学生たちを前にナノスパイクの技術概要を説明し、商品化や起業の可能性について意見交換する経験もしました。起業家の話を生で聞けるイノベーターズトークにも参加しました。

そして何よりも、この広い千里山キャンパスには、文系・理系・総合系などのさまざまな学部が、一か所にまとまっています。集まる人数も半端じゃなく、まさにダイバーシティ。私もいろんな学部から集まった100名近いアカベラサークルの幹事を務め、ライブを企画するといった経験もしました。そのなかでもいろんな人に出会い、未体験の刺激をもらいました。入学当時と比べると、自分の視野は格段に広がったなと実感しています。

人工衛星にはたくさんの方が関わります。私が就職する会社に関わるのは衛星本体だけですが、ロケット部分は重工系の企業が、さらには全体でももちろんJAXAも関わります。その規模は、1000人は下らないはず。そんな人たちと一緒に、モノを作る動機やプロセスを大切に、社会に役立つ人工衛星の設計の第一人者になれるよう、日々挑戦していこうと思います。

関西大学大学院 理工学研究科 ナノ機能物理工学研究室 新家谷 一生さん

大阪府出身
2018年3月 大阪府立岸和田高等学校 卒業
2018年4月 関西大学 システム理工学部 機械工学科 入学
2022年3月 関西大学 システム理工学部 機械工学科 卒業
2022年4月 関西大学大学院 理工学研究科 博士課程前期課程 入学
2024年3月 関西大学大学院 理工学研究科 博士課程前期課程 修了予定

INNOQUA 株式会社イノカ
代表取締役CEO 高倉 葉太氏

1994年 兵庫東姫路市生まれ
2013年 甲陽学院高等学校 卒業
2013年 東京大学工学部機械工学科 入学
2016年 株式会社Makership創業メンバー及びCOOとして参画
2019年 東京大学大学院 学際情報学府総合分析コース 卒業
2019年 株式会社イノカ創業

Innovator's Talk

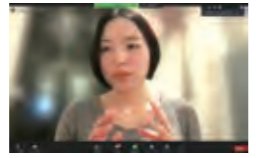
イノベーターズトーク

起業はもちろん、就職後も必要なアントレプレナーシップ(起業マインド)を醸成するイベント。活躍されている若手起業家や企業内で起業した社会人の経験談や想いから学びます。

Vol.29 2023年5月17日
オンライン開催

本学出身 株式会社inxR 代表取締役 **小磯 純奈氏**

テーマ (文系人間が)業種業界未経験からテック、IT領域で起業できた理由
「世界への挑戦」「社会貢献」をミッションに事業を行う小磯氏。新しいビジネスの発想は常に「お客様が何に困っているか」から始まり、目標に向かって果敢に行動・チャレンジを続けてきたエピソードの数々を紹介。また、小磯氏が卒業後に校友の先輩方に支えてもらった経験から、今後は自身も後輩の力になりたいと語りました。



学生の感想 目標から逆算し、とにかく行動に移すことが大切だと学びました。



Vol.30 2023年6月14日
対面開催

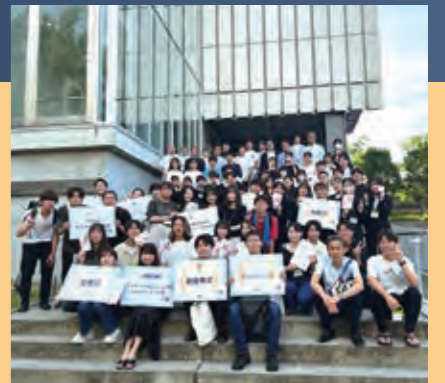
本学出身 株式会社ドコモgacco 経営企画室 マネージャー (講演時は、コンテンツプロデュース部 マネージャー) **飯野 健太郎氏**

テーマ 「失敗」は本当にダメなことなのか？
-失敗や挫折を糧に大企業でスタートアップを立ち上げた軌跡-
新入社員時代に仕事で大きな失敗を経験したことがきっかけで、全てに「何のため?」と自問する習慣をつけることで、自ら考え自由に仕事ができるようになったと話す飯野氏。社内制度に応募してファッション相談アプリ「coordimate(コーディネート)」を立ち上げるなど、失敗を前向きに捉え、チャレンジを続ける飯野氏の熱意に、学生が刺激を受ける機会になりました。

学生の感想 「目的を持って行動していれば失敗ではない。失敗は行動量のバロメーター」という言葉が心に残った。

イノベーション創生センター主催 **SFinX2023**

ビジネスアイデアコンテスト



イノベーション創生センターでは、アントレプレナーシップの醸成を目的とし、本学理工系学部の研究成果をいかに事業化するかを競うビジネスアイデアコンテスト「SFinX」を開催しています。2023年度も3月の技術説明会に始まり、中間発表会、事前相談会と約半年近くをかけて取り組んできました。8月1日に開催した最終審査会では、エントリーした14チーム約60名の学生が各チーム独自の視点で社会課題をとらえ、熱いプレゼンを繰り広げました。

また、今年度より新たにエントリーした学生を対象に、「イノベーション創出に向けたセミナー」(3回シリーズ)を実施することで、研究開発型ベンチャー創出への理解を深めるとともに、最終審査会に向けてのアイデア創出やプレゼンスキルアップを目的としたワークを行いました。

技術説明会

技術①
総合情報学部 瀬島 吉裕 准教授
人を惹き込む瞳コミュニケーション技術

音声入力に基づいて、ロボットやCGの魅力的な瞳孔反応を自動生成する技術

ヒューマンロボットインタラクション研究室

技術②
システム理工学部 吉田 壮 准教授
多様性を考慮した情報推薦技術

商品、楽曲、動画等のジャンルやカテゴリを多様にした推薦結果をユーザーに提供する技術

画像処理工学研究室 吉田グループ

技術③
環境都市工学部 豊田 政弘 教授
立体音響再生技術

音波の到来方向を含んだ音情報をヘッドフォンやスピーカを使って提示することで聴取者の周りに三次元的な音場を生成する技術

建築環境工学第I音ゼミ



SFinX2023 最終審査会 結果

最優秀賞		
チーム名	EDISONs ENCOUNTER KITERETSU	
プラン名	EmoPal	
受賞	チーム名	プラン名
優秀賞	おむすび	売れ残り商品に新たな価値を! ~Brand-new BOX~
	DIVE	多様性情報推薦技術

イノベーション創出に向けたセミナー

第1回	5月25日(木)	テーマ ベンチャーって何? ベンチャーへの理解を深めよう!	セミナー講師
第2回	6月8日(木)	テーマ ビジネスアイデア創出	第1回 ITPC 代表 潮尚之氏
第3回	7月13日(木)	テーマ プレゼンテーションスキルアップ	第2回・第3回 株式会社Co-learning 代表取締役 竹枝 正樹氏

協賛企業賞

アイ・エレクトロライト賞	りこめんじやー	させないよ 危険な運転 目につめ
アイチコーポレーション賞	DIVE	多様性情報推薦技術
ソフト産業プラザ テクノ賞	Mission Lounge	命名権で地方再生を加速させる NFTマーケットプレイスRelabel
パーソナルAVCテクノロジー賞	りこめんじやー	させないよ 危険な運転 目につめ
桃谷順天館賞	magic	時空を超えた感動を
オーディエンス賞	EDISONs ENCOUNTER KITERETSU	EmoPal

入居ベンチャーの活動報告

- 株式会社アイ・エレクトロライトが、2023年度NEDO「新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業」に採択されました。
- 株式会社アイ・エレクトロライトが、4年連続となる大阪府「令和5年度 エネルギー産業創出促進事業補助金」に採択されました。
- ORAM株式会社が、2025年の大阪・関西万博にむけたATC「大阪・味洲から万博につなげる100プロジェクト」に紹介されました。
- 株式会社KUREiが「2022年度日本食品工業会産学官連携賞」を受賞し、2023年8月3日に開催された授賞式で受賞講演を行いました。

写真右から3番目が同社CTO河原秀久氏

起業サポートシリーズ

起業に必要な知識・スキルについてセミナーおよびワークショップスタイルで学びます。

2023年4月19日
vol.5 **アントレプレナーシップセミナー**
事例から学ぶベンチャー企業(スタートアップ潮流)

デロイトトーマツ ベンチャーサポート株式会社
Next core事業部 事業開発ユニット マネージャー
イベント事業部 事業部長補佐 **狩谷 真治氏**

イノベーションの牽引役であるベンチャー・スタートアップ企業の特徴や、日本と世界におけるベンチャー企業の現状と取り巻く環境について学びました。

学生の感想 起業する環境が整っていると知り、あとは自分次第。学生時代に起業してみたいと思った。

2023年6月28日
vol.6 **アイデア発想ワークショップ**

デロイトトーマツ ベンチャーサポート株式会社
シニアアドバイザー **藤本 弘道氏**

これまでの人生を振り返り、描いた感情曲線で見えてくる自身の原体験から課題を導き出し、解決するための一連の流れをワークショップ形式で学びました。

学生の感想 ワークをすることで、自分がやりたいこと=解決したい課題だということに気づけた。

企業見学会シリーズ

先進的な取り組みを行っている企業を訪問し、最先端の技術・アイデアが詰まった施設の見学や、社員との意見交換を通して企業の新規事業について学びます。

vol.11 2023年6月21日
ミズノ株式会社 イノベーションセンター「MIZUNO ENGINE」

研究開発を強化し、スポーツによる社会イノベーション創出を加速するための施設「MIZUNO ENGINE」を見学。また、新規事業の取り組みや事例を紹介いただき、新規事業に携わった社員の方々とディスカッションを行いました。

学生の感想 ものづくりの開発効率と質を高める施設「MIZUNO ENGINE」の仕組みに魅力を感じた。

学生の感想 将来私も新規事業に携わり、他にはない画期的な商品を開発したい。

Event Schedule

2023年度秋学期 ▶ イベントスケジュール

2023 Autumn

イノバイターストーク Vol.31

2023年11月16日(木) 16:30~18:00



(株)

ない株式会社

ない株式会社
代表 岡 シャニカマ氏

イノバイターストーク Vol.32

2023年12月5日(火) 16:30~18:00



REST GLAMPING

Restoration

株式会社レストレーション
代表取締役 森脇 暉氏

課題発見・追求ワークショップ

2023年11月30日(木)・12月1日(金) 16:30~18:00



株式会社ドコモgacco
経営企画室 マネージャー
飯野 健太郎氏



株式会社NTTドコモ
コンテンツサービス部 主査
佐藤 瑠生氏



ワンダーファイ株式会社
マーケティングマネージャー
長畑 郁氏

企業見学会 Vol.13

秋学期 開催予定

詳細は、決まり次第SNS・チラシ等でお知らせします。

2024年度関西大学GAPプログラム(KUGAP)募集開始!

関西大学では、本学の研究成果をもとに起業や事業化を目指す萌芽的取り組みに対して支援し、新しい社会的価値の創出や広く社会的課題の解決に寄与することを目的とし、「関西大学GAPプログラム(KUGAP)」を2023年度よりスタートさせました。本学教職員や大学院生が事業化に向け、研究と事業化との間のギャップを埋めるためのPoC(Proof of Concept: 概念実証)の取得、プロトタイプ製作、実証実験、さらには市場調査などを行う際に必要な費用に対し、最大300万円を助成する制度です。

コード募集対象/本学専任教育職員・大学院生

助成額/上限300万円

募集期間/2023年9月21日(木)~2023年10月31日(火)

助成期間/原則2024年4月~(最大1年間)



学生コミュニティ

「Mission Lounge」活動報告

新しく1年生がメンバーに加わり、4月~7月はランチタイムを活用して交流会を行いました。交流会は、お互いを知るための時間から、徐々に活動計画を練る時間へとステップアップ。メンバー間のコミュニケーションツールをリニューアルするなど運営方法の見直しにも着手しました。現在は、メンバーの役割分担を行い、今後取り組むイベント実施に向け具体的なアクションが始まっています。

新しく1年生がメンバーに加わり、4月~7月はランチタイムを活用して交流会を行いました。

交流会は、お互いを知るための時間から、徐々に活動計画を練る時間へとステップアップ。メンバー間のコミュニケーションツールをリニューアルするなど運営方法の見直しにも着手しました。現在は、メンバーの役割分担を行い、今後取り組むイベント実施に向け具体的なアクションが始まっています。



編集後記

今号では、これまで以上に若き学生・研究者・起業家にフォーカスした内容となっている。4年で大学を卒業し、一流企業に就職することだけを考えながら大学生活を過ごしてきた私自身にとって、KUCICで社会人としてのキャリアを歩み始めてはや3年半が経過し、年齢が比較的近い若き人々の活躍・考え方を目の当たりにすることは、非常に刺激的で、日々自身のモチベーションの原動力になっている。ここ数年は、コロナ・円安・物価上昇・酷暑etc...気持ちの沈むようなマイナスな話題が世間を賑わせているが、我々のような若い世代が、先々の見えない未来を担うイノバイターとして、様々なステークホルダーを引っ張っていくことができるよう、今後も大学のために尽力していきたい。(研究支援・社会連携グループ 上杉 翼)

関西大学 イノベーション創生センター

Kansai University Center for Innovation & Creativity

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL06-6368-1250 FAX06-6368-1237
E-mail: kucic@ml.kandai.jp https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/innovation/index.html

発行日/2023年9月21日 発行/関西大学 イノベーション創生センター

関西大学 イノベーション創生センター は、学問分野の枠組みを越え、教員・学生・企業技術者との対話や交流を実現し、本格的なイノベーション創出の拠点を目指します。

関西大学イノベーション創生センターの『今』をご紹介します!

